

マスメディア論A  
マスメディア論  
担当：後藤 登

第12回 (2022/01/18)

★  
開講時：毎週火曜4限目 (15:30-17:15)

# はじめに

皆さん、こんにちは。

「マスメディア論A/マスメディア論」を担当いたします後藤です。

皆さん方の「小レポート」をととても楽しく読ませていただきました😊

本日の授業テーマは  
「遠隔授業とメディア」です。

# 本日の授業

遠隔授業とメディア

本日の小レポート

# 遠隔授業とメディア

さて、この授業も残りあと2回となりました。  
2020年の年初からの突然の**世界的なコロナ禍の影響**はまる2年が過ぎ、  
3年目に突入しようとしています。  
この間、日本でも数度にわたる「緊急事態宣言」「外出自粛要請」等が発出され、  
いまだ不安で不便な日常生活を送られているのではないかと思います。

他方、このようなコロナ禍の中でもなんとか必要な情報が得られ、  
また、お互いになんとかコミュニケーションを取ることができているのは、  
**情報技術の革新に支えられたメディアの存在**が大きいかと思います。

そして、このことは**大学における授業**においても例外ではありません。

日本を含め、世界中の多くの大学でも2020年春以降、**オンラインによる遠隔授業**が続いています。

これまで**対面授業**が当たり前だった皆さん方にとって、このコロナ禍での授業や大学生活はとても不便で、不安なものではないかと思います。

他方、このようなコロナ禍の中でもなんとか授業を受け、また、お互いになんとかコミュニケーションを取りながら、大学生活を送ることができているのは、同じく、**情報技術の革新に支えられたメディアの存在**が大きいかと思います。

そこで、本日の授業では、  
「遠隔授業とメディア」というテーマで、  
「オンライン型の遠隔授業のメリットとデメリット」について、  
皆さん方、受講生の立場から振り返っていただき、  
「ウィズコロナ/アフターコロナを見据えた対面・遠隔授業の可能性」についても  
考えていただければと思います。

さてここで、  
「遠隔授業」について少し整理をしておきましょう。

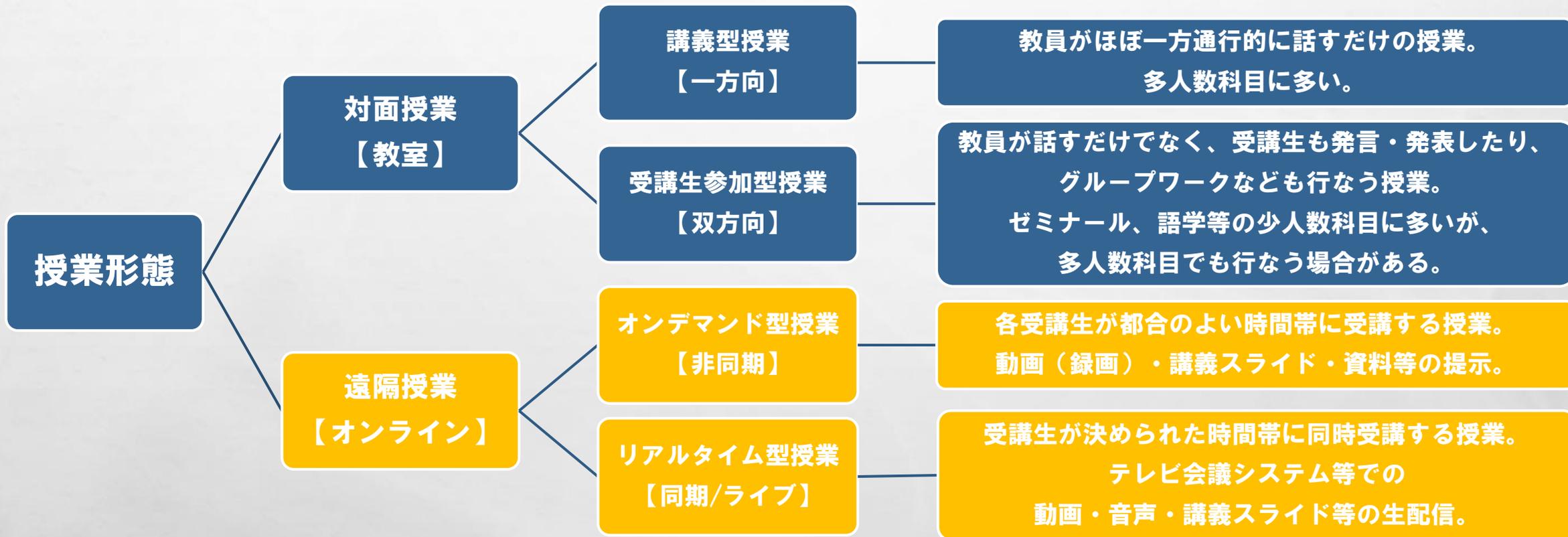
まず、「場所」という分類基準から見た場合、  
教員と受講生がお互いに別々の場所から参加して行なう授業である「遠隔授業」  
に対比される授業形態として「対面授業」というものがあります。  
皆さん方がこれまでの大学生活で受講してきた「教室」等での、  
教員と受講生が同じ場所でお互いに直接「顔」を合わせて行なう授業が  
それにあたります。

また、これまでの大学での「**対面授業**」は、  
「**情報の伝達の方向性**」という分類基準からみた場合、  
教員がほぼ一方通行的に話すだけの授業である「**講義型授業**」と、  
教員が話すだけでなく、受講生も発言・発表したり、グループワークなども  
行なう授業である「**受講生参加型授業**」に分けることが可能です。

他方、いま行われている「**遠隔授業**」は、  
「**受講の時間帯**」という分類基準からみた場合、  
各受講生が都合のよい時間帯に受講する授業である「**オンデマンド型授業**」と、  
受講生が決められた時間帯に同時受講する授業である「**リアルタイム型授業**」  
に分けることが可能です。

これらの「**授業形態の種類と特徴**」を図式化すると次のスライドのようになります。

# 授業形態の種類と特徴



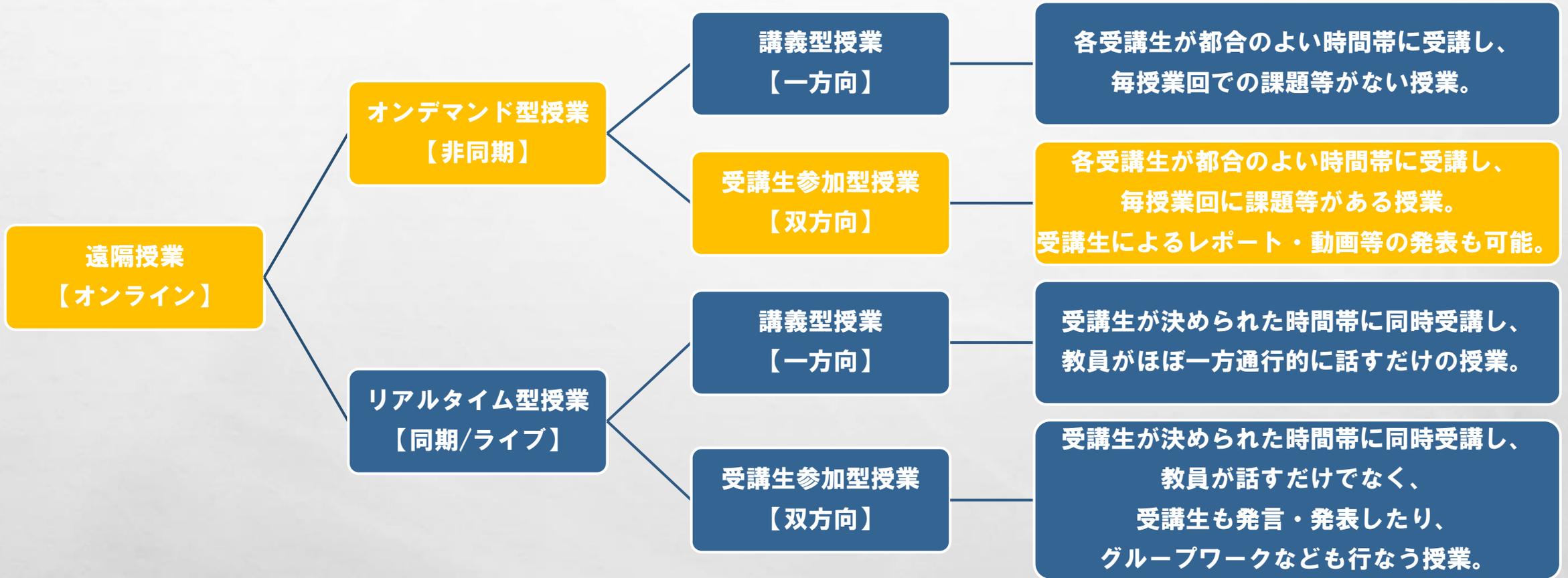
◎「遠隔授業」は、さらに、「郵送型（テキストやDVD等を郵送するもの）」「放送型（放送大学やNHK教育番組のようなテレビ・ラジオ放送によるもの）」「オンライン型（ネットワークで配信するもの）」などに分けることもできますが、ここでは「オンライン型」を取り上げます。

ところで、いま行われている「遠隔授業」は、  
「受講の時間帯」と「情報の伝達の方向性」という  
2つの分類基準を組み合わせることによって、  
次の4つの授業形態に分けることが可能になるかもしれません。

- A オンデマンド型/講義型授業
- B オンデマンド型/受講生参加型授業
- C リアルタイム型/講義型授業
- D リアルタイム型/受講生参加型授業

これらの「遠隔授業の種類と特徴・可能性」を図式化すると次のスライドのようになります。

# 遠隔授業の種類と特徴・可能性



◎ちなみに、本科目は、「オンデマンド型/受講生参加型授業」にあてはまります。

◎なお、オンラインによる遠隔授業の場合、時間・空間の制約がないことから、「オンデマンド型」「リアルタイム型」を問わず、「ゲストスピーカーによる講演」等も可能になります。

このように、ひと言で「**オンライン型の遠隔授業**」といっても、  
いくつかの授業形態に分けることができ、  
その特徴や可能性も異なることがわかるかと思います。

また、「**科目の特性**」「**知識の習得・定着**」「**思考の訓練**」  
「**発表・議論・共同作業・文章作成等の訓練**」「**課題解決**」、  
そして、「**対面授業との対比**」などの観点からみた場合、  
それぞれの**授業形態**には**メリット・デメリット**があり、  
どの授業形態がベストかについては一概に言えない部分もあるかと思います。

そこで、皆さん方、**受講生の立場**からみた場合、  
これら**4つの遠隔授業の形態**について、  
それぞれの**メリット・デメリット**について、是非、考えてみてください。

# 遠隔授業の種類とメリット・デメリット



# 遠隔授業の種類とメリット・デメリット

◎オンライン型の遠隔授業のうち、

- 「A オンデマンド型/講義型授業」
- 「B オンデマンド型/受講生参加型授業」
- 「C リアルタイム型/講義型授業」
- 「D リアルタイム型/受講生参加型授業」

のそれぞれの「メリット」「デメリット」について、  
「科目の特性」「知識の習得・定着」「思考の訓練」  
「発表・議論・共同作業・文章作成等の訓練」「課題解決」、  
そして、「対面授業との対比」などの観点から  
受講生の立場であなたが考えたことをノートに書き留めておいてください☺

さて、さきほど、皆さん方がコロナ禍の2年間で経験した「オンライン型の遠隔授業のメリット・デメリット」について、受講生の立場から皆さん方自身に振り返っていただきました。

つづいて、「ウィズコロナ/アフターコロナを見据えた対面・遠隔授業の可能性」について、同じく、受講生の立場で考えていただければと思います。

このコロナ禍の2年間の大学の授業を振り返ってみた場合、  
例えば、感染拡大の波が大きい期間は「**遠隔授業のみ**」で授業が行われ、  
また、感染拡大の波が小さい期間は「**対面授業と遠隔授業の併用**」で授業が  
実施されてきています。

すなわち、世界の多くの大学は、  
**コロナ禍以前、そして、このコロナ禍の経験**を通して、  
次の**3つのパターン**の授業形態を日常的なものとして構築してきました。

- ①対面授業
- ②遠隔授業
- ③対面と遠隔の併用授業

さて、この「**③対面と遠隔の併用授業**」の種類と特徴（OGUの事例）を整理すると  
次のスライドのようになります。

# 対面と遠隔の併用授業の種類と特徴（OGUの事例）

## A 対面+オンデマンド型遠隔の併用授業

対面授業を原則とするが、**同時に**、毎授業回、Caddieにも講義動画/スライドが提示され、  
毎授業回、Caddieに課題を提出する方式

## B 対面+リアルタイム型遠隔の交互授業

対面授業の回とZoom授業の回が**交互**に行われる方式。  
さらにこれにオンデマンド方式（\*）が追加される場合もある。

## C 対面+リアルタイム型遠隔の併用授業

対面授業とZoom授業を**同時**に行なう方式。  
さらにこれにオンデマンド方式（\*）が追加される場合もある。

### \*オンデマンド方式

毎授業回、Caddieにも講義動画/スライドが提示され、毎授業回、Caddieに課題を提出する方式

# 対面と遠隔の併用授業のメリット・デメリット

さて、ここで、

「対面と遠隔の併用授業の以下の3つのパターンに関するメリット・デメリット」について、  
それぞれ、

「科目の特性」「知識の習得・定着」「思考の訓練」  
「発表・議論・共同作業・文章作成等の訓練」「課題解決」などの観点から  
受講生の立場であなたが考えたことをノートに書き留めておいてください😊

- A 対面＋オンデマンド型遠隔の併用授業
- B 対面＋リアルタイム型遠隔の交互授業
- C 対面＋リアルタイム型遠隔の併用授業

# ウィズコロナ/アフターコロナ時代の授業形態

このように、このコロナ禍の2年間で皆さん方が受講した授業（講義、ゼミナール等）は以下のいずれかに（または、いずれにも）該当するのではないかと思います。



# ウィズコロナ/アフターコロナを見据えた 対面・遠隔授業の可能性

◎これらの授業形態は当面の「ウィズコロナ（コロナ禍）」だけでなく、部分的には「アフターコロナ（コロナ収束後）」においても定着していく可能性のある授業形態といえます。

そこで、最後に、  
「科目の特性」「知識の習得・定着」「思考の訓練」  
「発表・議論・共同作業・文章作成等の訓練」「課題解決」などの観点から受講生の立場で

「ウィズコロナ/アフターコロナ時代にあなたが受けてみたい授業形態」

について、「ウィズコロナ/アフターコロナ時代の授業形態」のスライドをヒントに自由な発想で考えたことをできるだけ具体的に、その理由も添えてノートに書き留めておいてください☺

# 本日の小レポート

# 本日の小レポート（授業参加点＝4点満点）

以下の3つの課題すべてをOGU-Caddieに回答・記入してください。

1. オンライン型の遠隔授業のメリット・デメリット

⇒スライド15枚目でノートに書き留めたこと（200字以上/三角ロジックで）

2. 対面と遠隔の併用授業のメリット・デメリット

⇒スライド19枚目でノートに書き留めたこと（200字以上/三角ロジックで）

3. ウィズコロナ/アフターコロナ時代にあなたが受けてみたい授業形態

⇒スライド21枚目でノートに書き留めたこと（200字以上/三角ロジックで）

提出期日：1/22（土）まで

再掲

# 授業評価にご協力ください😊

## 「マスメディア論A/ マスメディア論」 (火曜・4限目) 担当・後藤 登

### 『授業評価』へのアクセス方法【学生用】

※ スマートフォンからアクセスする場合は、通信事業者によってパケット通信料が課金されますので予めご了承ください。  
課金についての詳細は、契約されている通信事業者にご確認ください。

授業評価は、OGU-Caddie から Google に変更になりました。

◆ 授業評価にアクセスする (パソコン・スマートフォン)

1. 検索画面で以下のURLを入力してください。

● <http://goo.gl/q1HQZV> (1→アルファベット、1→数字)



こちらのQRコード  
からもアクセスでき  
ます。



2. OGUメールのアドレスを入力してください。

メールアドレスは回答の集計にのみ使用し、授業担当者に公表されることはありません。

OGUメール以外のアドレスからの回答は無効となりますのでご注意ください。

OGUメールのアドレスは学籍番号@ogu.ac.jp

(例：00E 0000 の場合は 00e0000@ogu.ac.jp)

# 「小レポート」「課題レポート」の評価ポイント

再掲

①すべての課題に回答しているか？

②字数・提出期日等の条件を守っているか？

③他の受講生の回答をコピペしていないか？⇒関係者全員が0点！

④「三角ロジック」の要素を入れてレポートを作成しているか？

# レポートの書き方のヒント😊

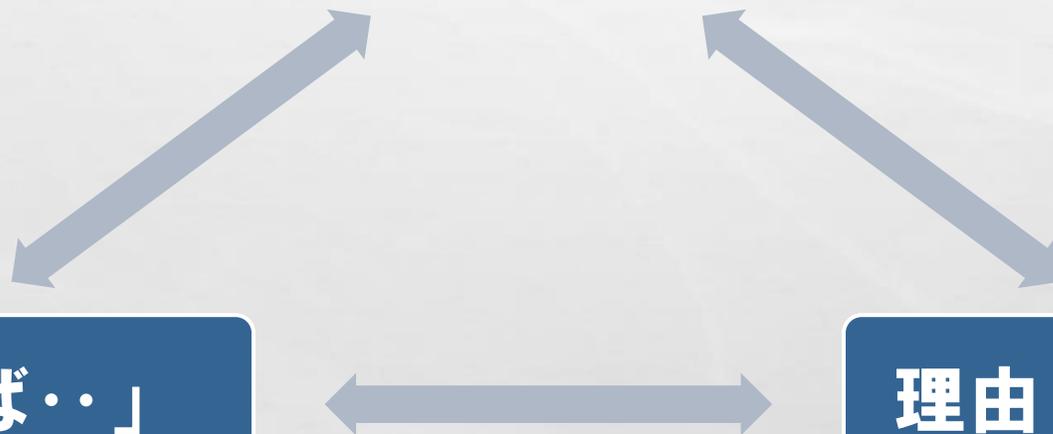
「三角ロジック」で書く

結論「〇〇である」

再掲

具体例「例えば・・・」

理由「なぜなら・・・」



# 「三角ロジック（結論・理由・具体例）」の要素を使った文章の例

再掲

課題□□□□について、私が考えたことは○○○○である。  
なぜ、そのように考えたかという、△△△△だからである。  
例えば、××××というデータ/例を挙げることができる。  
したがって、私は○○○○であると考えた。

○○○○＝結論、△△△△＝理由、××××＝具体例

# 質問と質問への回答の方法

「質問」がある場合は後藤までメールをお願いします。

後藤 登

[goto@ogu.ac.jp](mailto:goto@ogu.ac.jp)

科目名・学籍番号・氏名を必ず記載してください。

「回答」は原則として質問者に直接メールで回答します。  
ただし、他の受講生にも参考になると思われる回答は  
プライバシー情報を除いて、他の受講生にも共有します。

では、次回また、OGU-CADDIEでお会いしましょう😊

次回（第13回目＝最終回）の

遠隔授業は

1/25（火）4限目（15：30-17：15）  
になります。

おまけのスライド1枚、あります👉

やばい、  
第2回・課題レポート  
の締切まで  
あと1週間だ！



◎端末、通信環境の不具合、病気・怪我等、不測の事態を想定し、提出期日ぎりぎりに提出するのではなく、数日間の余裕をもって早めに提出するようにしてください◎